

ポスト・トゥルース時代の東南アジアにおける情報収集

岡本正明（京都大学）

1. 現地（で）の情報収集？

オフライン→オンラインでの情報収集の終焉

オンライン→オフラインでの情報収集の時代

オンラインだけでの情報収集の時代（＝現場感覚抜きの情報収集が可能な時代）

過度に可視的な情報と不可視的な情報との格差の時代

ポスト・トゥルースの時代（＝真実とはなにか、真実が重要かを問い直す時代）

→マス・メディア、出版の根本的変容（、縮小）、図書館の変容

2. （東南）アジアは？

- ① （再び）世界（経済）の中心の地域の一部へ（表1～4）
- ② 新たな情報化時代に突入しているラディカルな変化の時代
- ③ 政治体制の違いもあり、情報へのアクセスの格差が広がる時代
- ④ 情報操作・監視が容易な時代

3. インターネット浸透度・利用度（表5、6）

4. 紙媒体のメディアの衰退？（表7）

とりわけ、同時性が要求されるライフスタイルを扱う紙媒体メディア衰退

（雑誌：162誌（2012）→96誌（2017））

例：インドネシアでの毎日のニュース源（Nielsen Survey）

600万人－オンライン・メディア、450万人－紙媒体、両方－110万人

5. 東南アジアの報道自由度ランキング（図1）

6. 国家による検閲・監視、情報操作

7. フェイクニュースの氾濫

フェイク・ニュース屋の登場

8. オンラインでの情報・書籍購入

オンライン・メディア：広告収入→Quality Journalism による定期購読料収入

古本を含むオンライン書店の急増：極めて便利。フェイク書店も存在。

9. 大学・研究での競争原理導入の功罪

修士論文、博士論文へのオープン・アクセス加速

査読論文の増加→国際競争力の強化

英語プロシーディング、劣悪な学術誌乱立→オンライン・ジャーナルで加速化

学術語としての現地語<英語

大きなストーリーよりも微細な違いの強調？

10. ポスト・トゥルース時代の情報収集

オフライン情報（インタビューを含む）の重要性

調査報道メディアからの情報入手

現地ネットワークからの最新情報確保（+日本人研究者ネットワーク）